



新・社会福祉士養成カリキュラム における 240 時間実習のあり方 について

2022年3月5日(土)
13:00~15:30(予定)

※申込締切※

2月23日(水)

オンライン開催 (ZOOM) 参加費無料

※申し込んだ方に URL をお送りします。申込みは学会ホームページから⇒



シンポジスト：

- 廣野 俊輔(同志社大学 養成校① 1回生と3回生で実施)
- 高橋 味央(関西学院大学 養成校② 3回生で40時間と200時間で実施)
- 藤田 益伸(神戸医療福祉大学 養成校③短期実習を3回生後半、4回生で実施)
- 津田 克己(児童家庭支援センターしらゆり・児童養護施設グイン・ホーム 実習指導者)

基調講演・コメンテーター：

「新・社会福祉士養成カリキュラムの全体像及び240時間実習の概要について」

日本福祉大学 添田 正揮

コーディネーター：

関西学院大学 川島 恵美



企画趣旨

社会福祉士が国家資格化されて約 30 年が経過し、この間 2 回のカリキュラム改変が行われ、2021 年度入学生より第 3 期の新カリキュラムが制定された。そこでは、福祉行政における地域共生施策の推進に合わせて、ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士養成の位置付けが強化されている。それに従って、養成各科目における「相談援助」から「ソーシャルワーク」への転換、「講義—演習—実習」の学習循環、マクロ実践の強化等を目指して、2021 年度より各養成校において新カリキュラムの導入が行われているところである。

その中でも、これまでの 180 時間の実習では、「ソーシャルワーク専門職」としての体験が不足しているという考え方から、実習時間が 60 時間延長されて 240 時間以上となり、また、実習体験の場を異なる 2 箇所以上で行うことになった。しかしながら、この 240 時間の実習を 2 箇所で行う実施方法については、各養成校の裁量によって異なっており、2 箇所実習の時間の割り方、また 2 種類の実習をどの時期に行うかといったことについては、複数のパターンに渡ることになり、このことは実習を受ける実習施設にとっては混乱を生じさせることにもなりかねない。

そこで、今回の春季研究集会では、2023 年度より本格的に 240 時間実習が開始されるにあたって、実習の実施方法の異なる養成校の考え方、また実習を受ける実習指導担当者の考え方を共有した上で、より効果的な 240 時間実習のあり方について検討を行う機会としたい。